

## 歴史で辿る中央大学

今年125周年を迎えた中央大学。125周年の歴史の中には、様々なエピソードが存在します。中央大学創立125周年記念サイトでは、「歴史で辿る中央大学」として、本学の歴史にまつわるエピソードを紹介しています。今まで知らなかった中央大学の新たな一面を発見してみたいかでしょうか？

[ Campus ] 神田から多摩への軌跡

1905  
“明治38”



設立20周年記念講堂と改称広告

### 日本の知の中核へ中央大学に改称

中央大学の名称は日本学術の中核となる意と、増島らが留学し、自由主義と英米法を学んだ英国ミドルテンブル\*(中央法院)を重ね合わせたとされている。同年は学校設立20周年でもあり、職員・同窓生が共にさらなる大学発展のために尽力した。この後、法曹界、政界、言論界、地方財界で活躍する人材を多数輩出していく。また同年、経済学部の前身である経済学科がスタートする。背景には、急速に経済発展を遂げた日本が、近代的経営学を学んだ指導者を必要としたことがある。4年後の1909年に新設された商業学科とともに法学、経済学、商学と、社会科学系の領域を網羅することになった。また、中央高等予備校も開校。大学財政に寄与した。

\*: ロンドンにある法曹院の一つ。法曹院は法廷弁護士・裁判官の養成・認定機関。

### Time Machine Topics [ポーツマス条約]

日露戦争の講和条約。アメリカ大統領セオドア・ルーズベルトの斡旋によって、ニューハンプシャー州ポーツマス近郊にあるポーツマス海軍造船所において、日本全權小村寿太郎とロシア全權セルゲイ・ウィツテの間で調印された。この年、アインシュタインが特殊相対性理論を発表。

125周年記念サイトではこの他に、「わたしと中央大学」というコンテンツで、各界で活躍中の本学にゆかりのある方のエピソード紹介や皆さんからのエピソード投稿も受け付けています。ぜひ、皆さんのとってきおきのエピソードを投稿してみてください。

中央大学創立125周年記念サイト <http://chuo125.jp>

## 編集室

1885(明治18)年に英吉利法律学校として開校した中央大学を創設したのは、18人の少壮の法律家たちでした。明治維新後に地方から上京し、それぞれの道を開きながら、創立に結集した18人は、どういう人たちだったのでしょうか？

私は初代校長の増島六一郎先生は聞いていても、他の創立者はあまり知りませんでした。創立125周年記念展示で、知る機会を得ました。記念展示で掲げられた18人の創立者群像をみて、その高い志と進取の精神に圧倒されました。天折した何人かを含め、生涯を燃えつくしたであろう、その生き方はまぶしいばかりです。あの時代、「単身地球を半周」して異国の地に赴くには、大変な勇氣が

いったのは想像に難くありません。留学先での勉学、生活の困難さは、それ以上だったでしょう。

ミドルテンブルで猛勉強して卒業試験時に脳貧血を起こして1年後れになった岡村輝彦。渡航を急ぐため、藩士の身分ながら、「商人」の渡航許可証を手に入れた藤田隆三郎。藤田はトランプを持ち帰り、後に日本で流行らせました。ほかにも白虎隊出身の西川鉄次郎、帝国憲法前文の誤字をめぐり当時の枢密院議長、伊藤博文と激しく対立した高橋健三など、いずれも意気軒昂でした。

近代国家を目指し、「坂の上の雲」をみていたであろう創立者たちの時代と現代との世相の違いはあるにせよ、創立者たちの気概に学ぶべきことが多々あるように思った次第です。

(編集長 伊藤博)

学生記者が取材・編集する大学広報誌

Hakumon

Chuo  
ちゅうおう

2010

冬季号

2010年(平成22年)12月15日発行 No.219

発行 中央大学広報室

〒192-0393  
東京都八王子市東中野742-1

〈編集担当〉

『Hakumonちゅうおう』編集室

☎042-674-2048

印刷 泰成印刷株式会社  
〒130-0026  
東京都墨田区両国3-1-12  
☎03-3631-8141